

SSKO

ハイランドレポート
(高原通信)

Highland report ! ?

D.A.R.C 那須アディクションケアセンター
ニュースレター 第26号(2005, 5, 6)

回復のネットワーク

那須アディクションケアセンター
施設長 栗坪千明

新しい年度を迎えることが出来ました。これも皆様方支援者のおかげと感謝しています。

施設でプログラムを実践していると、毎日のことに追われ、なかなか先のことまで考えが及ばないのが今の私の現状です（私自身の能力の問題もありますが・・・）。

でもこの施設の事は、夢がなくてはやっていけないのも事実です。この先どうしていったら、まだ苦しんでいるアディクトに良いメッセージを伝え続けることができるのか。ということ春になり、新年度を迎えた今、ちょっと考えてみました。

最近うれしいことに、インターネットで「薬物依存」とキーワードを打つと、以前はあまり無かったのですが、たくさんのホームページが出来ています。薬物依存がアディクションという病気であると、認識されつつあるように思います。

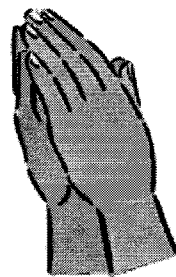
施設を2003年の2月に、ここに開設して、2年余りで約80人のメンバーが利用しています。これは決して少ない数ではありません。悲しいかなこの施設を必要としている人たちはたくさんいるということです。このことは私自身の自己肯定感を上げるのに大いに役に立っていますが、それと共に利用者と、まだ苦しんでいる仲間たちとその家族にも必要な施設にすることも考えなくてはならないと思います。

1月の末から2月の初めにかけて、厚労省の薬物研究班の方たちとアメリカのサンフランシスコに研修に行く機会が得られ、様々な施設とそのプログラム、制度について学ぶことが出来ました。

TC（治療共同体）という方法で運営しているのですが、どれをとっても日本の現状とは雲泥の差で、どこをどう取り入れたら良いのか。というか取り入れることが出来るのか、という感じでした。その中でこの施設に足りないものという自己完結性かなと思いました。

サンフランシスコのどの施設でも相談から社会復帰までのプログラムを持っているということと、そのための専門職が居ることでした。

回復プログラムは3段階に別れると思います。



初めに（回復プログラムへの）導入の段階、次に（自分自身に目を向け）クスリの欲求から解放される段階、最後に（アフターケアの習慣化と）社会復帰の段階。日本は制度も刑罰も全然違うのですが、単純に比較すると、クスリの欲求から離れ、自分自身に目を向けるという点では、自然の中という環境に恵まれた今の施設で十分に果たせていますが、弱いところは最初と最後の回復プログラムへの導入と、社会復帰の部分だと思います。そのことを解決するには、この2つの目的を果たせるような施設が別の場所に必要になってきます。つまり今のままではプログラムが完結しないということになります。相談に来るにも交通の便が良く、本人たちが社会復帰したあとでもフォローのしやすい都市部にも、施設が必要であるというのが、この2年間の活動と研修などを経て、とても強く感じるところです。



栃木県内に、このような回復のためのネットワークが構築されれば、依存者本人にとっても家族にとっても、とても良いメッセージになるのではないかと思います。早期実現のため、今の仕事をこなしつつ活動していきます。

今後とも、当施設のご支援ならびにご協力をお願いいたします。

5月予定表

- | | |
|-----|------------------|
| 5日 | ダルクセンター理事会 |
| 7日 | DACCS |
| 11日 | 裁判 |
| 12日 | 黒羽刑務所覚せい剤教育 |
| 18日 | 黒羽刑務所覚せい剤教育 |
| 22日 | 椎茸収穫祭 |
| 25日 | 黒羽刑務所覚せい剤教育 |
| 29日 | 那須ケアセンターを支援する家族会 |
| 29日 | バザー参加（宇都宮） |
| 29日 | バザー参加（黒磯） |

変わる自分

アディクトのヨウスケ

自分は、昭和56年10月9日生まれで5人の家族で暮らしていました。中学2年までは、ちゃんと学校に行っていて3年生から生活が変わってきました。何度も親が学校に呼ばれては先生に謝っている姿を見て自分はその場だけで反省をしては同じ事の繰り返しでした。

中学で初めて酒を飲んでタバコも吸い始めました。最初は親に隠れてタバコを吸っていました。そのうちに親は何も言わなくなってきた親の前でも吸うようになっていました。

高校にはちゃんと入れたけど1年の始めの頃に辞めてしまいました。親も最初は辞める事に反対していたけど仕事をする条件で許しをもらいました。直ぐに仕事を見つけ始めてみましたが思い道理にならない事が多く我慢できずに会社を辞めて遊びほうけていました

そんな生活をしている時に、前に遊んでいた友達と会いました。そんな時に始めてシンナーを覚えました。友達はアパートに一人で住んでいて、毎日みんなが集まっていた。ある日、自分の友達の友達がアパートにシンナーを持ってきました。最初は友達が吸っているのを見ていただけでした。周りがシンナーを吸っていて最初は抵抗があったけど少しずつ興味を持ち始めて、最後は自分も吸っていました。その時の事は記憶が全然残ってなくて吸った次の日の、体の具合の悪さだけが今でも覚えています。初めて吸った時は、やってしまったと罪悪感が頭から離れませんでした。具合が悪くなるのは嫌だから、もうやらないと思っていたのに、また吸っちゃう自分がいて吸い始めるとそんな事は何も感じなくなっていました。その内に毎日シンナーを吸うようになっていって、そこからが自分の薬物依存の始まりでした。

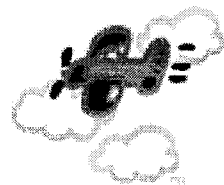
友達のアパートは街の方であって、自分の地元は海の方で結構田舎でした。そのためにシンナーとか売っている場所もあまり無く売っている知り合いは何人かしかいませんでした。地元に戻りその知り合いからシンナーを買って地元でもシンナーを吸う様になってしまいました。

地元に戻ってからの最初の頃は、周りの友達にシンナーを吸っている事が知られるのが嫌で、一人でシンナーを吸う時が多かったです。その内にまわりの友達の中でもシンナーが広まってきて一緒に吸う友達が増えてきました。だんだんシンナーの仲間が増えてくると警察に見つかる回数も増えてきて親にも何回も見つかるようになりました。親が自分の事でどこかに呼ばれるのは中学時代からの事で、違うところは、呼ばれる場所が警察署でした。警察所に呼ばれるたびに親が涙を流している。その姿を見ては、もうやらないと何度も思う。だけど家から1歩外に出るとまた同じ事の繰り返しだった。



仕事も探していたけどなかなか見つからなく、やっと見つけた仕事はペンキ屋の仕事でした。親はまたシンナーを吸うからと反対されていたけどその親方が自分の知り合いだったので断りきれずに仕事を始めました。最初の頃はまじめにやっていたけど、だんだんと仕事が入らなくなってきたり休みも多くなってきて休みのたびにまたシンナーを吸う様になってしまいました。その会社の親方はほとんど事務所に来なくて、自分はいつも事務所でシンナーを吸っていました。シンナーを吸って

は親に見つかるのが嫌で家に帰らないで事務所にずっと泊まっていました。食べるものも無く飲み物も無くてだんだんと痩せて行く自分の姿を見て親には絶対に見せたくないと思い、よけい帰れなくなってしまいました。今考えれば、どっちにしろ匂いでばれていたし、あの時に帰っていれば良かったと後悔しています。



最後にシンナーを吸ったとき警察に捕まり、もうどうしようもないと言われた時に逮捕されると覚悟しました。でもその警察は話を良く聞いてくれて自分にこの施設の事を紹介してくれました。親もいろんな所に相談に行っていて施設の事は知っていたらしく何回か親と話しをしている時に行ってみようと言われていました。でも自分はずっと嫌だと反対していました。自分にとっての施設のイメージは親に見放されて行くところだと思っていたし、一回行ったら二度と帰れないと思っていたからです。

でも警察署に親が迎えに来て涙を流したのを見て行く決心がつかしました。最初に仙台のダルクに親と行きそこで少し話しをして、仙台の施設長に那須の施設を紹介してもらいました。自分は、兄貴と親の三人に送られてきてその車の中で自分を励ましてくれてすごく励みになりました。施設に着いて、最初に見たのは周りの風景でした。見渡す限りが木でこんなところに施設なんかあるのかと思ひすごく不安になってしまいました。

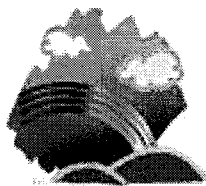
玄関からスタッフが出てきて荷物を事務所に運んでまずしたことは、名前を書く事でした。自分はその時、シンナーの影響で字も書けなくて歩く事もうまく歩けなく自分にとって本当のどん底でした。事務所で紙に書くのを兄貴にやってもらい荷物もスタッフに運んでもらい自分が本当に情けなくなりました。部屋に案内してもらいそこで初めて仲間と会いました。いろんな仲間がいて不安になっていた自分に最初に話をかけてくれたのが同じ部屋の仲間でした。その仲間は、今はもう居ませんが自分にすごく良くしてくれて色々教えてくれました。

最初はやっぱり仲間に迷惑をかけていたけどだんだんと、やらなくちゃいけないことを覚えてきて少しずつ施設の生活になれていきました。でも、1ヶ月位してから帰りたと思う気持ちが出てきて施設を出てしまった事もありました。出る前に施設長から出ても親は受け入れてくれないぞと、言われていたのに自分はそれを信用しないで出て行き結果は、出て行ってその日に帰ってきてしまいました。

でもいまは、それを後悔していません。その出来事で仲間との話の話題にもなって、仲間とうまくフェロウシップが取れるようになったからです。そこから自分の中で変わって行く自分が居てだんだんと明るい性格が戻って来て今ではサポートと言う役割をもらい楽しい生活をしています。この施設につながって初めて聞いた言葉がたくさんあって、最初は意味が全然分からなくて困っていました。自分の悩みや困った事があつたら仲間に相談した方が良いと聞いてそれを仲間に相談しました。そこから意味がだんだんと分かって来て今では完璧ではないけど、新しい仲間にも自分の知っている範囲で教える事が出来る様になりました。

これからまだまだ自分を変えて行かないとダメなので「今日一日」を大事にし自分自身の事を考えて生活していきたいと思ひます。

ありがとうございました。



平成16年度 那須アディクションケアセンター 決算書

(H16・4・1～H17・3・31)

<収入>

<支出>

(単位:円)

科 目				科 目				
区分		予算額	収入額	大区分	中区分	予算額	支出額	
1	寄付献金収入			81	事務費支出	11,622,560	12,163,230	
					1	職員俸給	4,740,000	4,570,000
					2	職員諸手当	790,000	80,000
					3	賃金	0	0
					4	法定福利費	0	0
					5	厚生経費	0	0
					6	旅費	300,000	316,540
					7	一般物品費	350,000	497,227
					8	固定資産物品費	1,260,000	1,262,400
					9	印刷製本費	100,000	88,536
					10	光熱水費	0	0
					11	燃料費	0	0
					12	会議費	20,000	7,716
					13	修繕費	50,000	134,359
					14	業務委託費	100,000	60,900
					15	役務費	1,300,000	1,661,786
					16	借料損料	2,480,000	2,726,069
					17	各所修繕費	10,000	0
				18	雑費	122,560	757,697	
		1,500,000	2,833,500			20,760,000	18,891,071	
2	後援会収入			82	事業費支出			
					1	給食費	5,000,000	3,542,939
					2	保健衛生費	10,000	0
					3	被服費	10,000	0
					4	教養娯楽費	60,000	0
					5	日用品費	600,000	600,111
					6	本人支給金	10,000,000	8,403,697
					7	光熱水費	1,000,000	1,159,462
					8	燃料費	3,000,000	2,592,447
					9	器具什器費	70,000	61,011
					10	修繕費	200,000	1,095,067
					11	訓練指導費	800,000	1,179,261
					12	医療費	0	0
					13	教育費	0	0
					14	職業補導費	0	0
					15	就職支度費	0	0
					16	葬祭費	0	0
				17	雑費	10,000	257,076	
		0	0					
3	入寮者寮費							
		30,000,000	29,788,478					
4	助成金							
		0	0					
5	雑収入							
		0	0					
6	前年度繰越金							
		527,393	527,393					
合 計		32,027,393	33,149,371	合 計		32,382,560	31,054,301	

16年度は生活保護の割合が高く入寮者寮費が予算より下回ってしまい、苦しくなっていましたでしたが一般献金が予算より大幅に多くあった為、乗り切ることができました。支援者の方々には、とても感謝しています。今後ともよろしくお願いいたします。



小峰城でお花見

発行所

郵便番号一五七一〇〇七三
東京都世田谷区砧六一二六一二一
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価100円

献金、献品を下された方々

川上ひで子様、箕輪隆光様、大藤礼子様、大藤スミ様、大田芳一様、小森栄様
安部恵一郎様、梅田京子様、大久保寿子様、腰高和秀様、郡山細沼教会様
野崎正雄様、高橋紘一様、左藤忠雄様、水井清次様、威徳院極楽寺様
福田澄夫様、柴田幸作様、神谷一二様、向井勝實様、福ヶ野和則様
小寺山忠則様、天満屋剛様、三森洋様、山口絵美様、猪瀬淳子様
土屋富士夫様、森前誠二様、磐梯ダルク様、鬼澤信様
那須ケアセンターを支援する会

匿名3名様

以前からニュースレター等で献品の、お願いをしていたバットやグローブなどが地元の方たちの協力で揃える事が出来ました。早速、使わして頂いております。ありがとうございました。

いつも献金、献品など戴きありがとうございます。尚、ニューズレター発送簡略化の為、郵便振替用紙は全員に同封させて戴いております。どうぞご理解ください。

編集

D.A.R.C 那須アディクションケアセンター
〒329-3225 栃木県那須郡那須町豊原丙 3227 番地 2

TEL 0287-77-7157 FAX 77-7158

Eメール n-cc@mte.biglobe.ne.jp

ホームページアドレス <http://www5f.biglobe.ne.jp/~NACC/>